

平成 27 年度青森市子ども会議 他市（川崎市）の子どもたちとの交流活動 概要

- 1 日時 平成 28 年 2 月 20 日（土）～2 月 21 日（日）
- 2 場所 川崎市子ども会議（川崎市子ども夢パーク：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1）
- 3 参加者 平成 27 年度青森市子ども会議委員 3 名（高校生 1 名、中学生 2 名）
事務局 1 名
- 4 活動内容 1 日目（20 日（土））：川崎市子ども夢パークの施設見学
2 日目（21 日（日））：川崎市子ども会議の子どもたちとの交流
- 5 開催概要

平成 28 年 2 月 20 日から 21 日にかけて、青森市子ども会議初の試みとなる「他市の子どもたちとの交流活動」を行うため、この活動に自ら参加を希望した 3 名が、神奈川県川崎市にある「川崎市子ども夢パーク」に行ってきました。今回の活動の目的は、他市の子ども会議の子どもたちと交流や意見交換を行うことにより、子どもたち自身による自主的、積極的な活動内容の企画・立案など、今後の青森市子ども会議の活動に活かすことです。



当日の朝、新青森駅に集合した子どもたちは新幹線で東京へ向かいました。東京に行くのは今回が初めてという子ども会議委員もいました。

東京に到着した一行は、まず宿泊先のホテルに行き荷物を置いた後、早速、施設見学を行うために川崎市子ども夢パークへ向かいました。青森ではなかなか体験することがない電車の乗換えに苦労しながらも、無事に夢パーク最寄の津田山駅に到着しました。

1 日目：川崎市子ども夢パークの施設見学

見学前に夢パーク近くのスーパーに立ち寄ると、外に設置されていたゴミ箱に「川崎市子ども会議」の文字を発見しました。エコキャップに関する活動を行っており、周辺のお店などにもご協力してもらっているようです。

施設に到着し、事務室の方にあいさつをして施設全体の見学をしました。この日の天気は雨で屋外のプレーパークには水たまりができており子どもたちはいませんでしたが、屋内の施設には、小学生から高校生くらいの幅広い年代の子どもたちが遊んでいました。



施設概要

川崎市子ども夢パークは、川崎市高津区にあり、敷地の面積はおよそ 10000 m²。（うち建物面

積は 1800 m³)。JR 南武線津田山駅から徒歩 5 分のところに位置しており、開設時間は毎日 9 時から 21 時まで。閉所は原則第 3 火曜日の施設点検日と年末年始 (12 月 28 日から 1 月 4 日) のみで、そのほかの日は毎日開所しています。

①屋外施設

・冒険遊び場 (プレーパーク)

土や水、火や木材などの自然の素材や、スコップ・金づち・のこぎりなど道具や工具を使って、子どもたちの遊び心で自由につくりかえられる遊び場づくりに取り組んでおり、走りまわったりキャッチボールなどを行えるフリースペース、池の中に滑り台を設置した水場、ログハウス、滑車ロープやアスレチックのような遊具、かまどや焚き火場所、畑などが所在しています。遊具等は、すべて手作りであり、また、プレーパーク内は基本的に土で、消毒等は一切行わないとのこと。



②屋内施設 (2 階建て屋上あり)

・フリースペースえん (1 階: 個室)

おもに学校や家庭・地域の中に自分の居場所を見つけられない子どもや若者たちのために開かれている居場所。登録制のフリースペースであり、現在 100 名近くが登録、利用料はかかりません。

・ゆるり (1 階: 個室)

主に就学前の子どもとその親たちが優先の部屋。おもちゃや絵本、ベビーベッドや授乳スペース、子育てに関する情報コーナーもあり、孤立することなく他の親子連れと交流できます。青森市の子ども支援センターと同じようなスペースです。

・スタジオ (1 階: 個室)

バンドや楽器の練習のできる、機材や防音設備の整った部屋 (2 部屋あり)。スタジオ講習を受ければ、誰でも無料で使用できます。6 畳程度の大きさです。

・全天候広場たいよう (1 階: ほぼ円形で 3 分の 1 程度が面壁なし)

バスケット・バレー・バドミントン・ミニサッカー・卓球などができる場所です。バスケットボールのコート半面程度の大きさであり、スペースの 3 分の 1 が壁なしのため、吹きさらしとなっています。

・川崎市子ども会議事務室 (2 階: 個室)

毎月 2 回行っている、川崎市子ども会議の活動拠点。8 畳程度の大きさで決められた活動日以外は、閉められています。

・多目的室 (2 階: 屋根つき壁なし)

ダンスや演劇等の練習ができるようなフリースペース。屋根はあるが、吹きさらし。



2日目：川崎市子ども会議の子どもたちとの交流

2日目は、川崎市子ども会議の活動開始時間の午前10時に施設を訪問しました。川崎市子ども会議の事務局の方が出迎えてくれ、施設の案内をしていただきました。その後、子ども会議が行われている事務室に入り、交流会が行われました。

当日は事務局2名、子ども会議委員4名、サポーター2名の方々が参加していました。

はじめに、事務局の方から川崎市の子ども会議の概略について説明をしていただきました。

川崎市子ども会議の今年度の活動は、

- ①たばこの分煙について（どのようにすれば喫煙者と吸わない人それぞれにとって、より住みやすい川崎市になるのかなど）
- ②エコキャップの回収活動（子ども夢パーク周辺の店舗等へのエコキャップ回収用ボックスの設置依頼活動など）
- ③行政区子ども会議との交流活動（市のほかにある、市内7つの行政区や各中学校区の子どもの会議との交流・報告会、協力した活動の実施など）

を行っており、いずれも昨年度からの継続テーマで、すべてのテーマについて委員全員で取り組んでいる、とのこと。また、委員の登録者は15名いますが、実際に活動日に集まるのは概ね5人前後であり、この日は、毎年3月に川崎市長室にて行われる活動報告会へ向けた報告書の作成などの準備活動をしていました。

事務局からのご説明後、質問などを行っているうちに残り時間が30分ほどになってしまいました。川崎市の委員たちは3月の報告会に向けて活発な話し合いが行われており、本市の委員3名は同じテーブルに座り、活動の様子や方法を見学し、質問などをしていました。限られた時間ではありましたが、川崎市の委員とサポーターの活発な議論を目の当たりにし、本市の委員3名は少なからず何かしらの刺激を受けたことと思います。



以上で、青森市子ども会議初の試みとなる「他市の子どもたちとの交流活動」は終了しました。このような交流活動を継続的にいき、来年度以降の青森市子ども会議の活動に活かしたいと考えています。